

平成 27 年度事業報告

事業の概況

認定された公益事業を継続し、着実に実施した。また、協会運営についても、円滑に実施することが出来た。

当年度に行った事業の概況は次の通りである。

I 公益目的事業部門

1. 糖類に関する正しい知識の普及・啓発のための事業及び食の安全を基本とした食育推進事業（公益目的事業1）

(A) 料理学校を媒体とした普及・啓発事業及び食育推進事業

最大手料理学校の株式会社ホームメイドクッキングを媒体として全国展開により実施した。

全国直営校 86 教室、指定校（自宅で料理教室開催）250 教室の合計約 69,500 名の生徒に対し、当協会が農学博士と共にセミナーや砂糖工場見学等を通して糖類の正しい知識を理解させた専任講師が、通常の料理教室と食文化講座及び子供向け食育講座等に於て事業を実施した。

イ 東日本直営校 42 教室 約 33,100 名

ロ 西日本直営校 44 教室 約 28,900 名

ハ 指定校 733 教室の内 250 教室 約 7,500 名

上記の普及・啓発活動が各料理教室の生徒に有効に実施されているかを調査、指導のために、全職員が順次全国の料理教室に出張して実地見分した。

(B) 糖類セミナー事業

(1) 各都市の地元ラジオ局やテレビ局と連携を取りながら広く募集告知を行いセミナーを開催。講師（農学博士）と参加者との間で質疑応答や意見交換などに職員も参加して積極的な交流を図り糖類に関する正しい知識の理解を深めた。セミナー終了後にアンケートを実施、参加者の啓発効果を確認した。また、ラジオ局やテレビ局のニュース等でもトピックスとして放送して、更に啓発効果を高めた。

<開催概要>

イ 6月23日（火） 佐賀市 参加者 72名 後援 KBC 九州朝日放送

ロ 7月7日（火） 新潟市 参加者 111名 後援 BSN 新潟放送

ハ 10月20日（火） 山形市 参加者 122名 後援 YBC 山形放送

ニ 11月26日（木） 東京都 参加者 269名 後援ニッポン放送

合計 参加者 574名

(2) 東京セミナーと連携して、より深く糖類に関する知識の普及・啓発及び食育の啓蒙を図るため、東京セミナーの提携ラジオ局の(株)ニッポン放送を通じてオリジナル番組を放送し好評を得た。

(C) 全国ボウリング公認競技場協議会との連携による普及・啓発事業

誰もが手軽に楽しめて健康増進に役立つスポーツ部門での高参加率を誇るボウリングを通じて普及・啓発事業を実施した。

4月10日（金）～6月10日（水）全国ボウリング公認競技場協議会（全国の主要ボウリング場オー

ナーで構成されている) 加盟の全国 47 都道府県の 50 ヶ所のボウリング場にて随時職員が見分した。
(参加者約 780,000 名)

各ボウリング場には「砂糖は脳と体に大切なエネルギー」の横断幕及びポスターを掲出、当会刊行の啓発パンフレット配布、JBC [(公財) 全日本ボウリング協会] ニュースへの啓発広告掲載。

(D) 全日本小学生ドッジボール選手権大会協賛による普及・啓発事業

未来ある子供達の心身の健全育成を目的とした、(一財) 日本ドッジボール協会主催、文部科学省、(公財) 日本体育協会等の後援の全日本小学生ドッジボール選手権夏季大会に協賛した。

全国 46 都道府県で予選 (623 チーム参加) を行い、各県代表チームが全国大会に出場した。上記のうち予選の 23 県及び全国大会の参加者、その父兄及び観衆に対し、職員が出張して横断幕/ポスター/パンフレットにより普及・啓発事業を実施した。(参加 419 チーム、参加者約 17,240 名)

2. 糖類に関する調査研究活動に対する助成及び糖類に関する公益活動を行う団体への助成事業 (公益目的事業 2)

「砂糖の生理的代謝と情緒的、精神的影響に関する研究」

浜松医科大学名誉教授・食と健康プロジェクト理事長 高田 明和 氏

上記に対し助成し種々必要な資料を提供した。

3. 糖類に関する情報の収集、整理、提供事業 (公益目的事業 3)

橋本 仁農学博士が、資料、情報収集のため学会シンポジウムへ参加した。

- ① アジアCD (環状オリゴ糖) カンファレンス及び日本CDシンポジウム合同会合
- ② 澱粉研究懇話会
- ③ 日本応用糖質科学会
- ④ 日本栄養食糧科学会

4. 特定美術品展示、公開及び官公庁等の美術館への貸出しにより広く国民の文化の発展に寄与する事業 (公益目的事業 4)

- (1) 5月7日(木)~6月30日(火)、昭和女子大学光葉博物館へ特定美術品 55 点を貸出展示、展覧会「洋画の愉しみ—日本の洋画を模索した作家たち」を開催した。入場者数 1,237 名
- (2) 7月3日(金)~12月2日(水)、市立小樽美術館と苫小牧市美術博物館巡回展に特定美術品 57 点を貸出展示、市立小樽美術館を第 1 会場、苫小牧市美術博物館を第 2 会場として、展覧会「花ひらく近代洋画の世界」を開催した。入場者数小樽美術館 1,932 名、苫小牧美術博物館 5,062 名
- (3) 平成 28 年 1 月 25 日(月)~29 日(金)、協会 1 階ロビー、2 階ホワイエ、小ホールに於いて、特定美術品 43 点を展示。展覧会「日本近代洋画の粋」を開催した。入場者数一般 88 名、会員 31 名合計 119 名の皆様が鑑賞した。

II 収益事業部門

1. 会館及び施設の管理運営並びに賃貸を行う事業 (収益事業 1)

- (1) 会館の賃貸業務及びビル管理、維持並びにその経費圧縮に努めて、本事業の費用対効果を高め、これを財源とする公益事業の質的向上に努めた。
- (2) 当協会所有ビルの内、テナントへの賃貸部分に対する 11 年目の賃貸料の更新を適切に取り決めた。

また、その業務／管理を遂行するにあたっては、その管理維持費の節減並びに適切なビル修理を実施した。

(3) 1階ロビー、ホール、図書室、娯楽室、談話室他諸施設の更なる有効利用を図った。

Ⅲ 管理部門

1. 講演会の企画、開催

会員等の連帯感、教養を高めて公益事業への更なる協力を促すため、各業界の著名な講師による講演会を次の通り開催した。

イ	平成 27 年 4 月 23 日 (木)	「新しい地震予測の取組みと実績」	東京大学名誉教授	村井 俊治 氏	
ロ	〃	5 月 19 日 (火)	「海から考える日本の未来」	東海大学海洋学部教授	山田 吉彦 氏
ハ	〃	9 月 25 日 (金)	「健康寿命を伸ばす～動ける身体の作り方」	NHK テレビ・ラジオ体操指導者	多胡 肇 氏
ニ	〃	10 月 22 日 (木)	「安倍政権が政治・経済を一新するか」	政治評論家	屋山 太郎 氏
ホ	〃	11 月 27 日 (金)	「アンコールワットの謎に挑戦 54 年」	上智大学元学長	石澤 良昭 氏
ヘ	平成 28 年 2 月 22 日 (月)	「日本人を幸せにする経済学」	独協大学教授、経済アナリスト	森永 卓郎 氏	
ト	〃	3 月 24 日 (木)	「台湾独立派の大勝に、中国は？」	評論家	金 美齡 氏

2. 情報機器による事務の合理化等により、適切な運営、管理を行うと共に引き続き経費の削減、及び余剰資金に対しては、元本保証を前提としての高率な運用益を創出した。

協会運営に関する事項

1. 総会

平成 27 年 6 月 19 日午前 11 時より、当協会会議場に於いて、第 4 回社員総会を開催（出席正会員 340 名）、次の議案を付議した。

第 1 号議案 平成 26 年度事業報告並びに平成 26 年度貸借対照表、正味財産増減計算書、附属明細書、財産目録及び附属明細書（砂糖関係振興資金預り金収支報告書）承認の件
原案の通り承認議決した。

第 2 号議案 理事 9 名選任の件
原案の通り承認議決した。

第 3 号議案 監事 2 名選任の件
原案の通り承認議決した。

報告事項 (1) 平成 27 年度事業計画書並びに収支予算書（正味財産増減予算書）について説明があった。

(2) 評議員 14 名委嘱について、報告があった。

2. 理事会

当期中 11 回開催され、総会提出議案のほか、「公益法人」の事業運営に関する諸案件を始めとする当協会の主要業務につき審議、決定した。

3. 評議員会

当期中 1 回開催され、総会提出議案を審議したほか、重要な会務について報告を受けた。

4. 専門委員会

(1) 総合企画委員会（委員長 高柳雄一氏ほか 5 名）

当期中 1 回開催され、特待会員の年会費の徴収について審議し、理事長に答申した。

(2) 会員選考委員会（委員長 橋本仁氏ほか 6 名）

当期中 2 回開催され、正会員、賛助会員入会申込者を選考し、理事長に答申した。

(3) 公益委員会〔委員長 岩崎充利氏ほか 8 名（うち 2 名社外特別委員）〕

当期中 2 回開催され、平成 28 年度の公益事業計画、公益事業予算等を審議し、理事長に答申した。

(4) 行事委員会（委員長 太田正孝氏ほか 6 名）

当期中 2 回開催され、協会諸行事の計画等を審議し、理事長に答申した。

(5) 美術品委員会〔委員長 松久直史氏ほか 7 名（うち 2 名社外特別委員）〕

当期中 2 回開催され、特定美術品の展示、公開、官公庁等の美術館への貸出し等について審議し、理事長に答申した。

5. 登記及び監督官庁への届出事項等

(1) 平成 27 年 6 月 26 日、平成 26 年度の事業報告等に係る提出書を内閣総理大臣宛提出した。

(2) 平成 28 年 3 月 30 日、平成 28 年度事業計画書、収支予算書（正味財産増減予算書）、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類を内閣総理大臣宛提出した。

6. 会員入退会者数（平成 27 年 4 月 1 日～28 年 3 月 31 日まで）

入 会 個人正会員 10 名

個人賛助会員 3 名

退 会 個人正会員 39 名（うち死亡 18 名）

個人賛助会員 1 名

7. 会員数（平成 28 年 3 月 31 日現在）

法人正会員 16 社（前年 3 月末 16 社）

個人正会員 436 名（ “ 465 名）

“ 賛助会員 41 名（ “ 39 名）

会 員 総 数 493 名（ “ 520 名）

以 上